

第5次和泉市地域福祉活動計画

【令和6年度～令和10年度】

(第1次案 骨子)

第1章 新たな計画策定にあたって



1. 計画策定の背景と目的

少子高齢化や核家族化、価値観の多様化などを背景に、地域内の人と人とのつながりや、地域に対する関心が薄れています。

また、近年は、社会的な孤立の問題、ダブルケアやヤングケアラー、8050問題などにより、個人や世帯が抱える課題が複雑化・多様化しています。地域では、様々な事情により自分や家族だけでは解決が難しい課題を抱えながらも、自ら支援を求めることができずに生活している人もいます。そうした課題の解決は、社会とのつながりや身近な住民による支え合いの関係が糸口となることもあり、公的サービスによる支援だけでなく、地域住民やさまざまな地域の活動主体の参画による支え合い、助け合いの仕組みも必要とされ、地域福祉活動に対する期待は大きなものになっています。

地域福祉活動を推進していくためには、地域住民が自分のすむ地域の良いところ、あるいは、課題となっているところ等に関心を持ち、そのことを皆で共有し、多くの住民の参加を得ながら、行動することが大切であり、中長期的な視点で計画的に取り組むことが必要です。

そのため、市社協では地域住民と共に活動計画を策定し地域づくりを進めています。

この活動計画が地域づくりに関わる全てのみなさまの日頃の参考として活用されることを期待しています。

2. 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係性

「和泉市地域福祉計画」は、高齢者、障がい者、子ども、その他の福祉について共通して取り組むべき内容が示された計画であり、福祉以外の保健・人権・まちづくりといった計画とも調和を図ったうえで、市が策定したものです。また、「和泉市地域福祉活動計画」は、地域福祉計画を進める活動計画であるとともに、地域福祉の主役はその地域に暮らす住民であることを基本として、住民主体で小学校区別活動計画を策定するとともに、市社協がその住民による地域づくりのプロセスにどう関わり支援するかということについても盛り込んでいます。

地域福祉計画と地域福祉活動計画は相互に連携しながら地域福祉を推進していきます。

市と同じ関係図挿入

3. 社会福祉協議会とは

和泉市社会福祉協議会（市社協）は、住み慣れた地域の中で誰もが安心して暮らせる社会づくりを目的とし、地域のみなさまの参加協力のもと「共に生きるまちづくり」を目指して福祉事業を進めている社会福祉法に定められた民間の福祉団体です。

※1 社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条で「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と規定されています。

4. 第 4 次地域福祉活動計画の評価

第 4 次地域福祉活動計画における評価について、平成 31 年度～令和 5 年度までの地域や市社協事業の振り返りをもとに、成果について総合的に評価、分析し、次期計画に向けた考察を行いました。

第 4 次地域福祉活動計画の基本目標	取り組み内容や成果	次期計画に向けて
基本目標 2 日頃からのつながりの強化と防災力の向上	① 災害に強い市社協を目指し、4 つの防災対策プロジェクトチームを設立し、災害対応マニュアル、災害ボランティアセンター設置/運営マニュアル、福祉避難所開設運営マニュアル等を見直し、より実用に即した内容へと改善を加えました。	① 左記の取り組みの充実を継続して行うと共に、各プロジェクトチームの取り組みの稼働や連携を目指していきます。
	② 災害ボランティア制度の創設までは至りませんでした。アイ・あいロビーにより、災害ボランティア活動の研修や事前登録の呼びかけ等の啓発活動を行いました。 （災害ボランティア事前登録者 86 名、令和 4 年度）	② 災害ボランティアに関する研修や啓発活動、災害ボランティア事前登録等の呼びかけを継続して行います。

	<p>③ 地域の関係機関等と避難行動要支援者等の支援を含む防災訓練や見守り体制の構築、関係づくりについて協議を行いました。協議の場等の話し合いの場を通じて、災害や防災に関する取り組みの情報提供や共有を行い、活動の支援を行いました。</p>	<p>③ 市内全体での防災力の向上を目指し、地域における避難行動要支援者を含んだ見守り活動や地域の防災や減災にかかる取り組み等の支援や啓発を行います。</p>
--	---	---

2章 現状と地域住民の思い

1. 和泉市の地域の特性

地域福祉計画から必要な内容のみ引用

2. アンケート調査結果からみる和泉市の現状

(1) アンケート調査の概要

地域福祉活動計画を策定するにあたり、今まで地域活動に関わる機会を持てなかった方たちを含む地域住民や未来の創り手となる子どもたちの思いを聴き取り、今後の地域づくりに反映するために2種類のふくし(ふだんのくらしのしあわせ)アンケート調査を行いました。

回答数の偏りはありますが、アンケート調査2種類共に全ての小学校区の方から協力いただけました。

【協力いただいた団体】

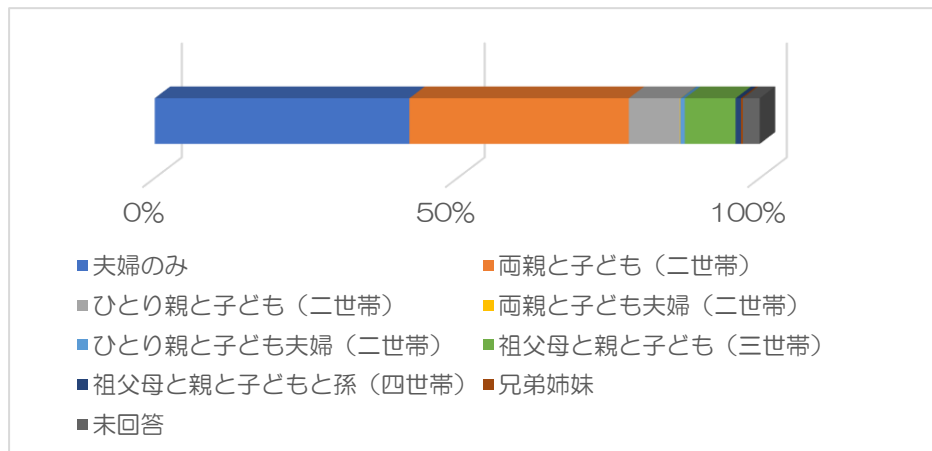
校区社会福祉協議会・町会連合会・民生委員児童委員協議会・老人クラブ連合会・保護司会・障がい者家族会・視覚障がい者団体・ふたば幼児教室・エンゼルハウス・小学校・中学校等

①一般住民対象…市内在住/在勤

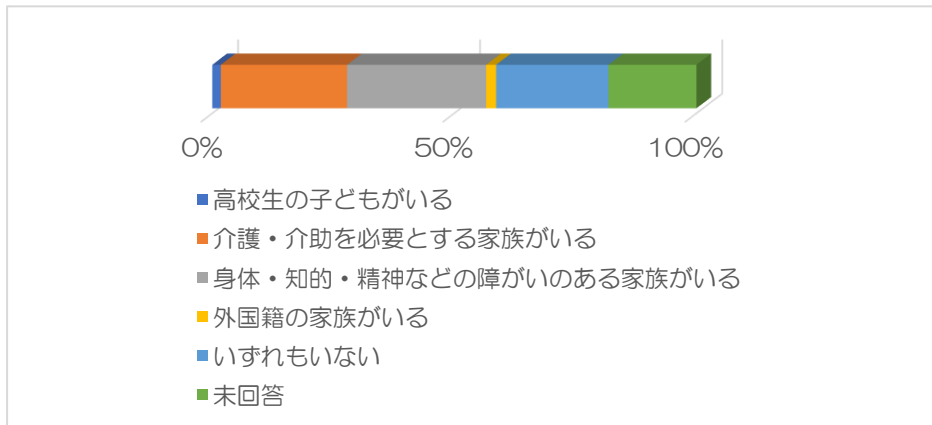
- ・ 実施期間 令和5年5月中旬～6月30日
- ・ 方 法 Google フォームを活用した電子媒体と紙媒体の2種類
- ・ 回 答 数 1,520通

【回答者の状況】

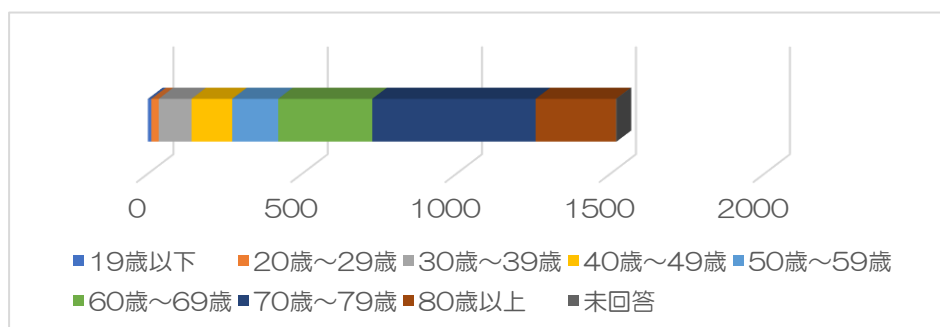
➤ 世帯の状況



➤ 同居する家族の状況



➤ 年齢



データから見た背景

②子ども対象…市内の小学5年生/中学2年生

- ・ 実施期間 令和5年6月中旬～7月下旬
- ・ 方法 Googleフォームを活用した電子媒体
- ・ 回答数 1,781通（小学5年生646通・中学2年生1,137通）

【回答者の状況】

➤ 兄弟姉妹について

いる	1,576	いない（自分だけ）	205
----	-------	-----------	-----

自分を含めた兄弟姉妹の人数

2人	3人	4人	5人以上	未回答
877	519	117	49	14

➤ 同居する家族について（複数選択）

母	父	兄弟姉妹	祖母	祖父	その他
1,739	1,579	1,537	214	141	132

ひとり親または両親がいない世帯のおとなの構成

母	母と 祖父母	父と 祖父母	父	祖父母
116	45	10	8	4

➤ ごはんを食べる環境について

ごはんをひとりで食べることもある

	ある	ない	未回答
全体	902	870	9
中学2年生	664	466	5
小学5年生	238	404	4

ひとりで食べる場面

	朝食	休日の昼食	夕食	答えたくない
全体	403	419	420	49
中学2年生	304	304	334	37
小学5年生	99	115	86	12

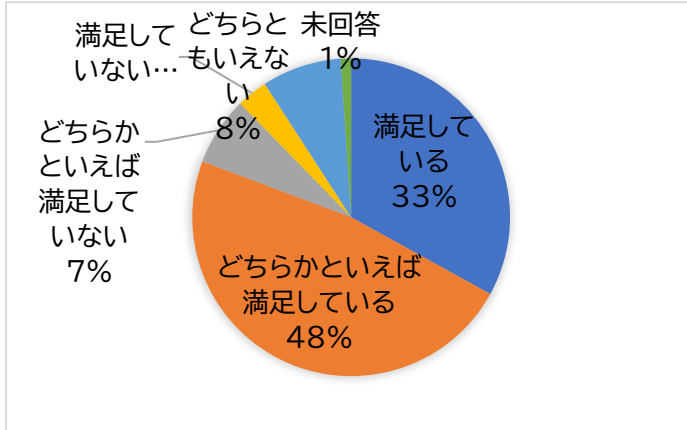


データから見た背景

(2) アンケート調査結果から考える

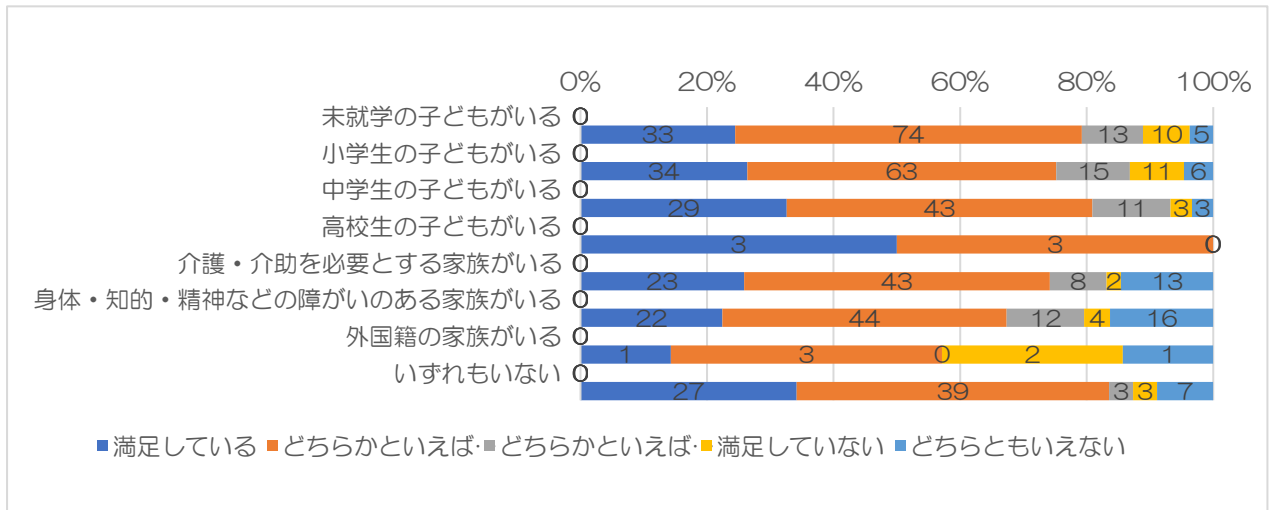
① 生活の満足度について

➤ 全体の満足度

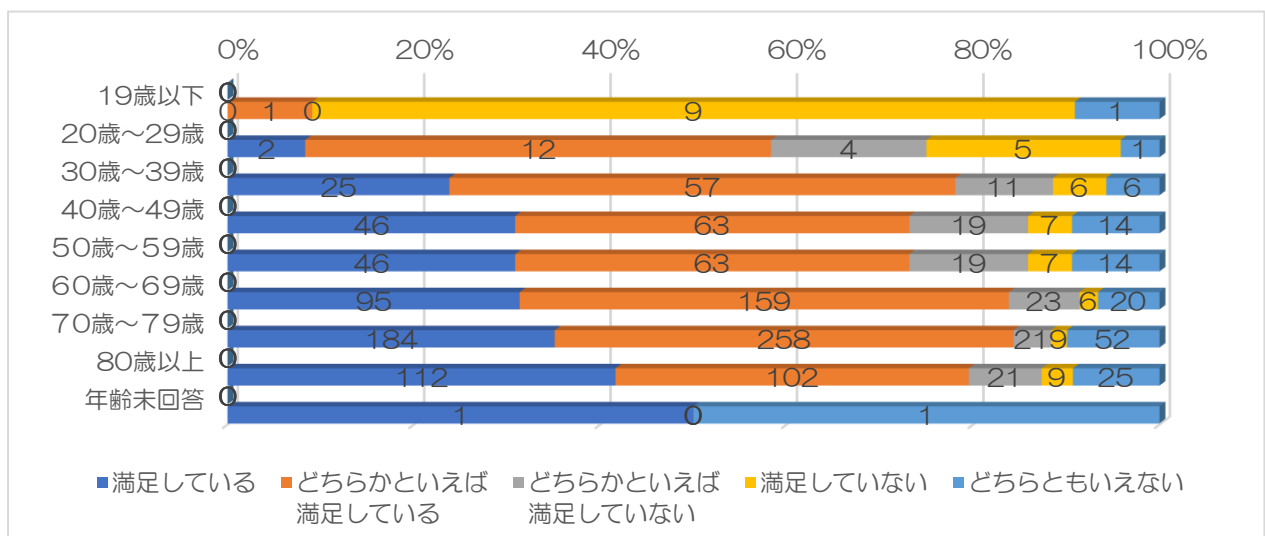


データから見た背景

➤ 同居家族別生活の満足度



➤ 年齢別生活の満足度



② 和泉市が『こんなまちだといいな』という市民の意向

1位 買い物が便利なまち 14%

【現状の社会資源や助け合い活動】

評価指標となる項目とR5年度時点の
数値を示す予定

※この設問の選択項目が13と多いため、上位項目のパーセンテージもさほど高くない結果となっています。

2位 住民同士のまとまりや助け合いが多いまち 12%

【現状の社会資源や助け合い活動】

評価指標となる項目とR5年度時点の
数値を示す予定

3位 幅広い世代の人々の交流や付き合いが多いまち 10%

【現状の社会資源や助け合い活動】

評価指標となる項目とR5年度時点の
数値を示す予定

3位 困りごとの相談窓口がわかりやすいまち 10%

【現状の社会資源や助け合い活動】

評価指標となる項目とR5年度時点の
数値を示す予定

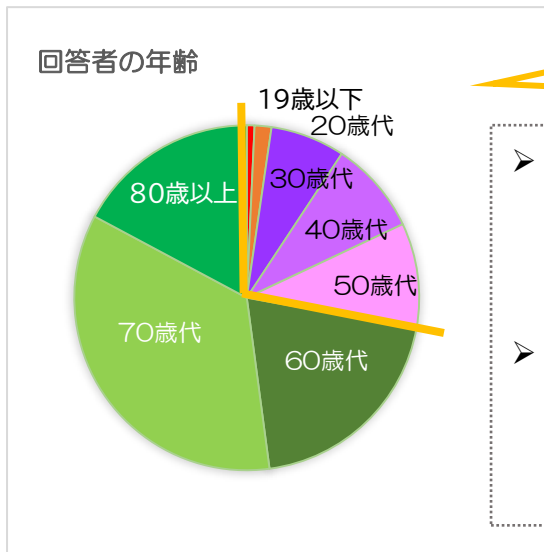
5位 災害時の避難体制や避難所の運営がわかりやすく示されているまち 9%

【現状の社会資源や助け合い活動】

評価指標となる項目とR5年度時点の
数値を示す予定

③ 地域活動の担い手不足について考える

➤ 一般住民対象のアンケート結果から



次世代の担い手と考えられる 19 歳以下から 50 歳代の方の考えに着目

- 地域を良くする話し合いや活動への参加に対する考え
 - 参加したい 21%
 - **参加しないが、話し合いの内容を知りたい 51%**
 - 参加したくない 18%
 - その他 10%
- 興味のあるボランティア活動
 - 1位 子どもの居場所づくり
 - 2位 子ども食堂
 - 3位 子育て世代の交流の場づくり

その他興味のあるボランティア活動

地域のクラブ活動の指導者、学校が苦手な子どもへの支援活動、外国人を孤立させない活動、子どもや不登校の子の学習支援、障がい者の活動支援等

周知方法等の工夫で

「参加したい」に気持ちを変化させたい

市アンケート調査結果より抜粋

設問：福祉サービスの情報入手経路（昇順）

1. 市の広報・市のホームページ
2. 社会福祉協議会の広報誌「社協いずみ」
3. 町会・自治会の回覧板や掲示板



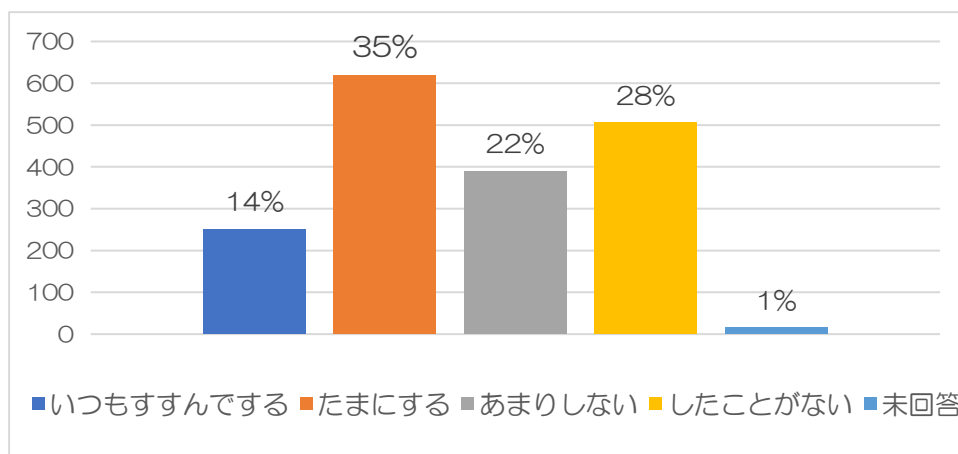
データーから見た背景

➤ 子ども対象のアンケート結果から

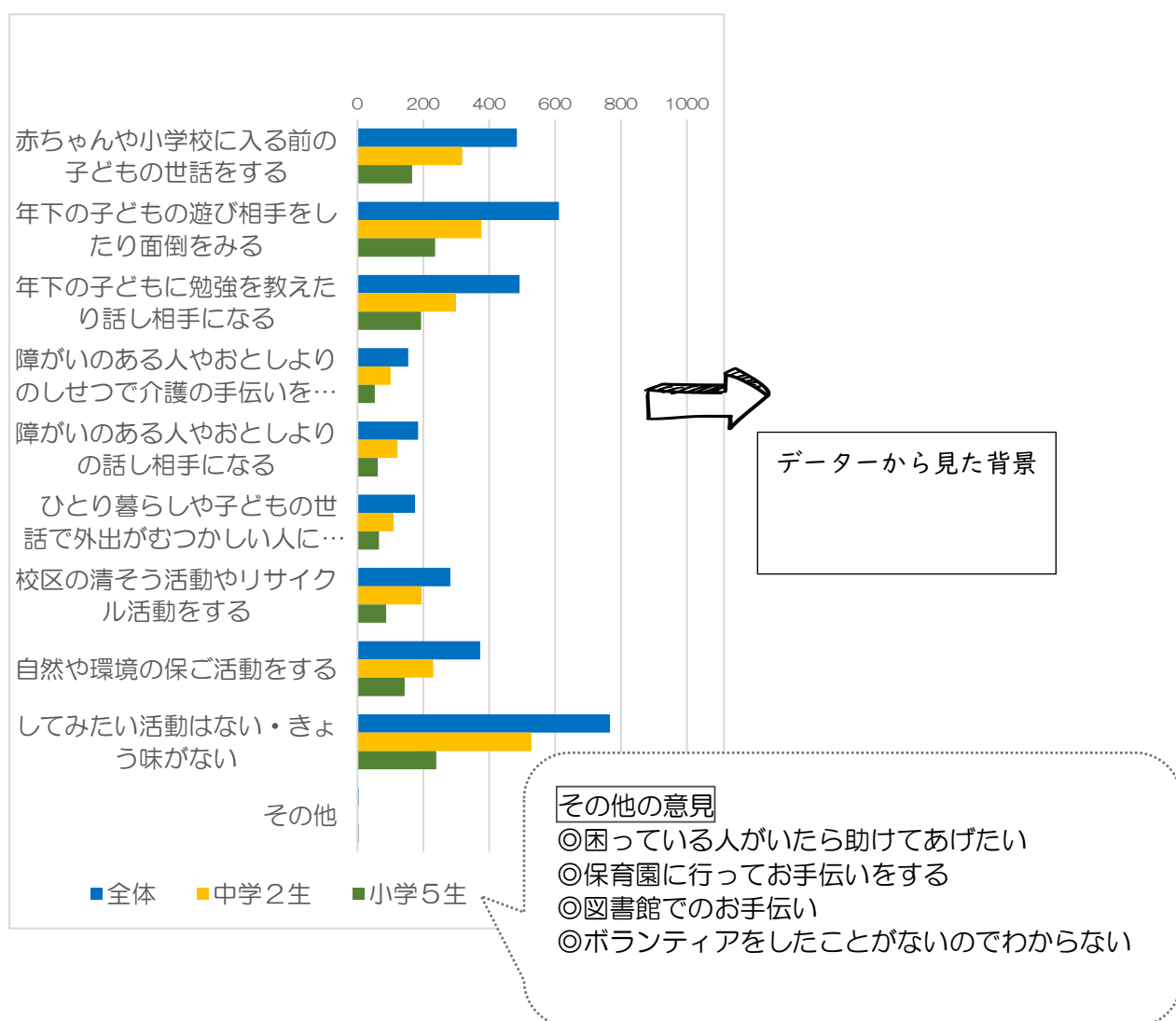
- ・ 地域のお年寄りとの交流の機会がありますか

ある	ない
419	1,362

- ・ お年寄りや体の不自由な人が困っているのを見かけたらお手伝いしますか

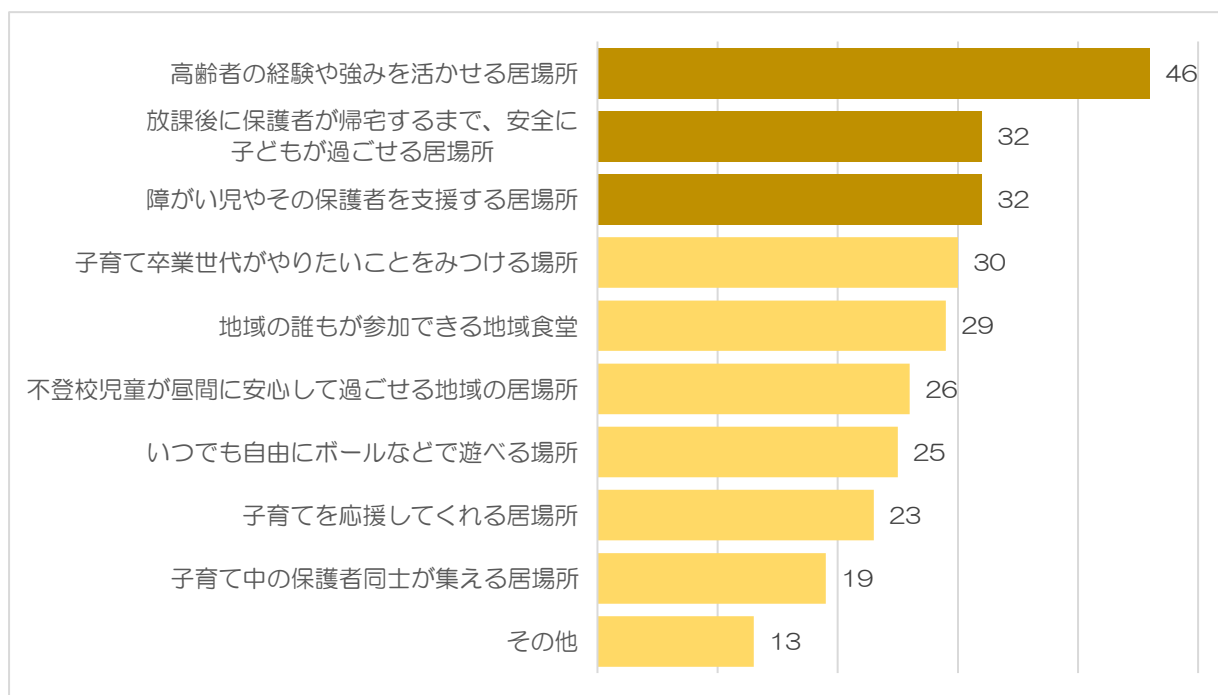


- ・ 子どもたちが興味のあるボランティア活動

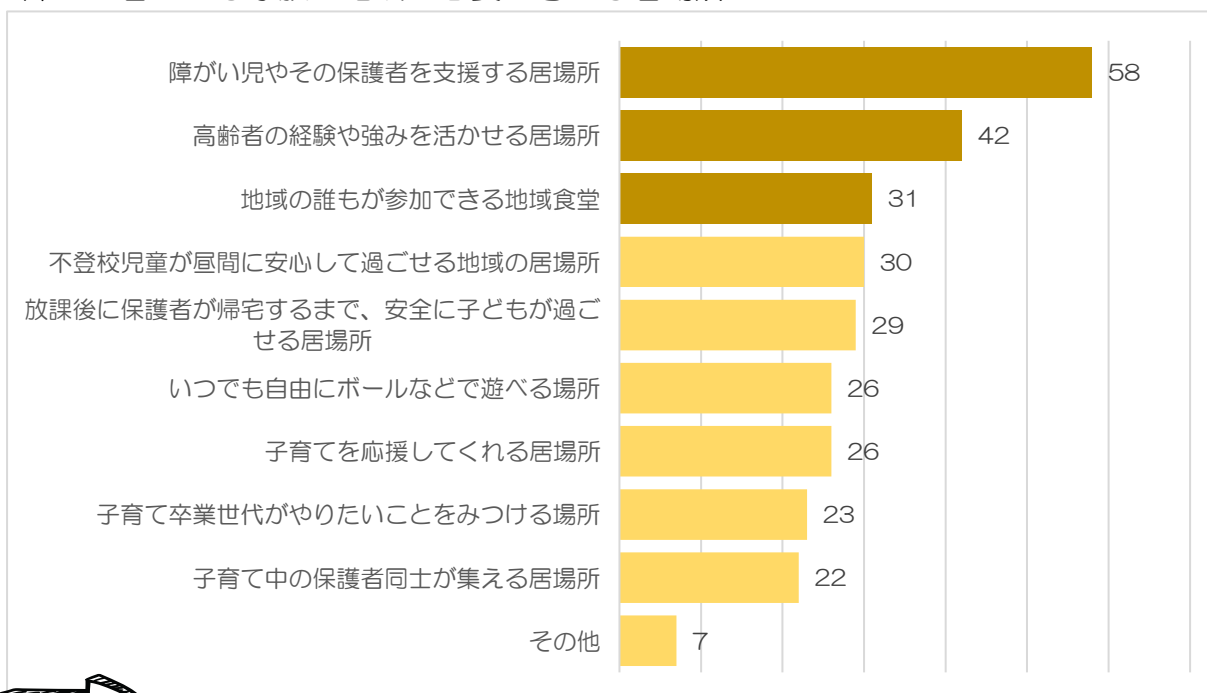


④ 要介護者のいる家族及び障がい者のいる家族の想いと居場所づくり

➤ 要介護者のいる家族が地域に必要と考える居場所



➤ 障がい者のいる家族が地域に必要と考える居場所

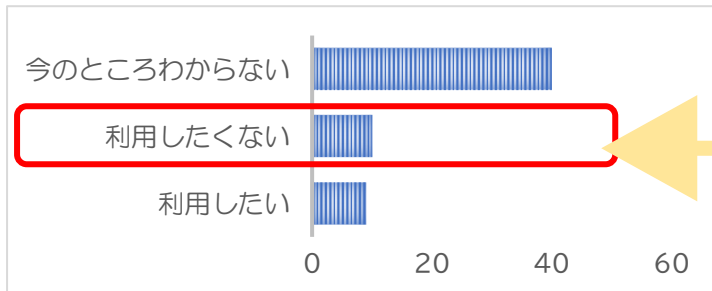


データから見た背景

➤ 権利を守ることについて

≪市が行ったアンケート結果から抜粋≫

- ・ あなた自身や家族が認知症や障がいなどにより、判断能力が不十分になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか



【利用したくない理由】

- ◆ 制度の仕組みがよくわからないから
- ◆ 他人に財産などプライベートを知られたくないから
- ◆ 費用がかかるから
- ◆ 家族との関係が悪くなるから

≪一般住民のアンケート結果≫

- ・ 興味のあるボランティア活動（複数選択）についての意向を確認した設問で、2%の方が市民後見人を選択される。下記の表は選択された方の人数を年齢別で示したものです。

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
1人	2人	10人	9人	7人	18人	8人



データーから見た背景

3章 和泉市社会福祉協議会の活動計画

1. 計画の期間

本活動計画が連携する「和泉市地域福祉計画」の期間に合わせ、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

ただし、期間の途中であっても社会情勢の変化や計画の進捗状況に応じて必要な見直しを行うこととします。

市と同じ期間のイメージ図挿入

2. 計画の基本理念

決定した基本理念

市と同じ基本理念に関する図挿入

3. 市社協の活動目標と取り組み

地域福祉計画に示される基本目標

基本目標1 丸ごと受け止める相談支援体制

基本目標2 取り残されない・多様性を認める地域づくり

基本目標3 多様な主体とつながる地域活動の担い手づくり

基本目標4 住みたい・災害に強い福祉のまちづくり

上記、地域福祉計画と校区别アクションプランを進めるため、市社協としての活動目標と取組みを以下のとおり示します。

活動目標1

▼地域住民の思い

▼市社協の取組み

活動目標2

▼地域住民の思い

▼市社協の取組み

活動目標3

▼地域住民の思い

▼市社協の取組み

※活動目標1～3については、
活動目標4と同様の内容でまと
める予定です。

活動目標4 『日頃の備え力』から地域防災力をアップ！（仮）

昨今のような、いつどこで被災するか分からない状況に備え、「自身・隣近所・地域など」でできる防災や減災に係る取組みを各校区で検討し、災害に強い福祉のまちづくりへの支援を進めていきます。また、市社協としても啓発等のみではなく、「災害に強い市社協」となるよう体制づくり等を推進していきます。

▼地域住民の想い

- ◆ 近所付き合いを大切にし、顔の見える関係づくりをしたい！
- ◆ 防災/減災にかかる研修会を定期的開催したい！
- ◆ 自主防災会の機能強化に取り組みたい！
- ◆ 実践的な防災訓練を実施したい！

活動者の皆さまより
いただいたお声



▼市社協の取組み

- ◆ 防災対策プロジェクトチームによる協議を進める
- ◆ 災害により強くなる為の市社協内の制度等の仕組みづくり
- ◆ 防災に関する取組みへの継続支援を図る（研修会や防災訓練等）
- ◆ 「自助/共助」による助け合いが機能できるよう、地域支援を図る
- ◆ 「平常時からの繋がりづくり」の大切さをボランティア等に周知を図る
- ◆ 避難行動要支援者制度を活用した仕組みづくりを検討する

評価指標

4. さまざまな活動主体の地域福祉活動への参画

基本理念“.....”とあるように、地域福祉の推進のためには、地域と関わりを持つ全ての人や団体、企業、学校等が、地域に対して帰属意識を持つとともに、それぞれの得意分野を活かしながら積極的に行動し、強くつながり、連携、協働していくことが大切です。

繋がりイメージ図挿入

4 章 小学校区別活動計画

別紙参照